

第35回 令和6年度

# 全国グループホーム等研修会



兵庫県マスコットはばタン

## 近畿地区大会 in 兵庫

### Information

どこまでやれるのか地域支援、  
どこへいくのかグループホーム  
—本人が希望する地域生活を実現するために—

期 日

令和6年9月12日（木）・13日（金）

会 場

神戸メリケンパークオリエンタルホテル

住所) 兵庫県神戸市中央区波止場町5-6  
電話) 078-325-8111

主 催

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会  
近畿地区知的障害者施設協会  
一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会

後 援

兵庫県・神戸市（予定）

参加費

【会員】13,000円（10%税込）  
【一般】18,000円（10%税込）  
\*宿泊費は別途

定 員

500名（先着順）

BE KOBE



## テーマ

# どこまでやれるのか地域支援、どこへいくのかグループホーム

— 本人が希望する地域生活を実現するために —

## 趣旨

1989年、精神薄弱者地域生活援助事業（当時の名称）としてグループホームが制度化されて、30余年が経過しました。この間「自立している者」の「地域での暮らしの場」として整備が進められてきました。グループホームは、「脱施設」と「地域移行」を掲げ、障害のある方々の地域での豊かな生活を実現するための重要なツールとして、その数を飛躍的に増やしてきました。

2018年には、高齢の方や重度の方々も利用できる日中サービス支援型グループホームが創設され、制度上は、障害の内容、種別、程度に関係なく、本人が望めば地域で生活することが可能となりました。さらに、2024年4月の制度改正では、「一人暮らし生活」や「パートナーとの生活」を希望する方々への支援も推進していくことが明示されました。

制度改正を繰り返し、現在、「本人が希望する地域生活の実現」のために、グループホームには、多大な期待が寄せられています。と同時に、私たち職員には幅広い分野における「専門性」が求められています。

重度の方から自立生活を希望する方まで、青年期から高齢期まで、幅広い多様なニーズに私たちは、どのように対応していけばいいのでしょうか。そして、グループホームが、真に「本人が希望する生活を実現できる場所」となるためには、今後、何が必要なのでしょうか。皆様と一緒に考える場としていきます。

## 日程

【1日目】 9月12日（木） 12:00～受付 13:00開会→17:30閉会  
【2日目】 9月13日（金） 8:30～受付 9:00開会→12:00閉会

### 【1日目】

9月12日（木）

12:00	13:00	13:30	14:40	15:50	17:20	17:30
受付	開会式	行政説明	基調講演	シンポジウム	引継式	

### 【2日目】

9月13日（金）

8:30	9:00	12:00
受付	分科会	

◆懇親会は開催いたしません  
◇両日とも暫時休憩時間あります

# 9月12日(木) 全体会 (行政説明・基調講演・シンポジウム)

## ◆開会式 (13:00~13:30 30分)

- ・主催者挨拶
- ・来賓祝辞 兵庫県知事・神戸市長(予定)



©兵庫県 2007

## ◆行政説明 (13:30~14:30 60分)

### 「地域生活支援に係る国の施策の動向」(仮)

- 【講師】 今井 貴士 氏 (厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課  
地域生活・発達障害者支援室 室長補佐)

## ◆基調講演 (14:40~15:40 60分)

### 「本人が希望する地域生活を実現するためにすべきこと」

- 【講師】 松端 克文 氏 (武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授)

## ◆シンポジウム (15:50~17:20 90分)

### 「本人が希望する地域生活を実現するために私たちがすべきことは何か」

#### 【シンポジスト】

- 最上 太郎 氏 (社会福祉法人菊愛会 理事長)  
(日本知的障害者福祉協会 前地域支援部会長/政策委員長)
- 光増 昌久 氏 (社会福祉法人 札幌緑花会 理事)  
(札幌みんなの会支援者・小樽手をつなぐ育成会 会長)

#### 【アドバイザー】

- 今井 貴士 氏 (行政説明 講師)
- 松端 克文 氏 (基調講演 講師)

#### 【コーディネーター】

- 石本 伸也 氏 (社会福祉法人もえぎ会 業務執行理事)  
(日本知的障害者福祉協会 地域支援部会長)

## ◆引継式 (17:20~17:30 10分)

- ・今期開催県(兵庫県) 代表者挨拶
- ・次期開催県(山形県) 代表者挨拶





- 第1分科会** 特別な支援を必要とされる方の地域支援  
－大阪府における先駆的な取り組み－
- 第2分科会** グループホームってナニ？  
－多様な支援に取り組むグループホームからの発信－
- 第3分科会** ホームスタッフは地域生活支援のスペシャリスト  
－スタッフに求められるスキルとは－
- 第4分科会** 本人が希望する生活を実現するために  
－本人の意思を尊重した地域生活とは－

## 第1分科会

### 特別な支援を必要とされる方の地域支援

－大阪府における先駆的な取り組み－

入所施設から地域生活への移行や親なき後の対策において、「**特別な支援**」を必要とされる方の**グループホームの確保**が課題となっています。**大阪府**では、「特別な支援」を必要とされる方々の地域生活を支援するグループホームを拡大していくために、関係職員に対し、適切な支援を行う上で必要な知識や技術の習得を目指して、**実地研修やコンサルテーション等を実施**しています。この先駆的な取り組みについて紹介し、実践を共有します。

- 【講演①】** 「大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業とは」  
有本 俊行 氏 (大阪府 福祉部生活基盤推進課 主査)
- 【講演②】** 「体制整備事業の委託を受けて」  
平野 貴久 氏 (社会福祉法人北摂杉の子会 常務理事兼統括部長)
- 【実践報告①】** 宮崎 恭平 氏 (社会福祉法人門真共生福祉会 ジェイ・エスステージ 生活支援員)
- 【実践報告②】** 吉村 周一 氏 (社会福祉法人光輝会 隆光学園 施設長)
- 【実践報告③】** 大嶋 基 氏 (社会福祉法人四幸舎和会 かたやまの赤いやね 法人事業部長)
- 【シンポジウム】** 講演・実践報告の講師によるシンポジウム  
コーディネーター：平野 貴久 氏 (講演② 講師)

## 第2分科会

### グループホームってナニ？

－多様な支援に取り組むグループホームからの発信－

現在、グループホームは、利用する方々が**多様化**し、障害内容も年齢もそしてニーズも、その範囲が拡大しています。そこで、この分科会では、**高齢者、重度身体障害者、強度行動障害者、触法者等**、特別な支援が必要と思われる方々を率先して受け入れているグループホームから、開設の経緯や、日々の支援内容、そして職員の思い等を報告いただき、**どのような障害があっても地域で安心して生活するためには、何が必要なのか**を考えます。

【講演】 「どこへいくのか？グループホーム」

橋上 慶一 氏 (社会福祉法人美熊野福祉会 ワークランドそら 施設長)

【実践報告①】 宇都宮明香 氏 (社会福祉法人明桜会 あいすくりーむの家 サービス管理責任者)

【実践報告②】 木村 和弘 氏 (社会福祉法人しが夢翔会 G-square/ステップ広場ガル 施設長)

松岡 啓太 氏 (社会福祉法人びわこ学園 大津市基幹相談調整センター

主任相談支援専門員)

【実践報告③】 北村 友隆 氏 (社会福祉法人和光福祉会 ホーム事業わわわ 管理者)

市田 晋也 氏 (法務局 大阪保護観察所 統括社会復帰調整官)

【シンポジウム】 講演・発題の講師によるシンポジウム

コーディネーター：岩田 稚香 氏

(社会福祉法人しがらき会 しがらき地域生活支援センター 管理者)

## 第3分科会

### ホームスタッフは地域生活支援のスペシャリスト

－スタッフに求められるスキルとは？－

障害のある方々が希望する地域生活を実現していくために、私たちグループホームの**スタッフの役割**とは何か、**スタッフに求められるスキル**とはどのようなものか、皆様、悩みながら、迷いながら日々支援をされているかと思います。この分科会では、先駆的な取り組みを展開しているホームの実践を共有するとともに、**スペシャリストとして**、今後目指すべき方向、習得すべきスキル等について、**参加者全員**で考えていきたいと思います。

【講演】 「暮らしの場の職員の役割と専門性 －本人主体の暮らしを築くために－」

田中 智子 氏 (佛教大学 社会福祉学部 教授)

【実践報告①】 「ホームスタッフに求められるスキル。その先に見えるもの。」

浅田 康義 氏 (社会福祉法人世光福祉会 ベテスタの家 所長)

【実践報告②】 「日中サービス支援型グループホームを中心とした地域生活支援の取り組み」

中川 博之 氏 (社会福祉法人雪の聖母園 ライフネットゆうばり 管理者)

【グループディスカッション】 数名のグループに分かれて、ディスカッション

「みなさんのホームではどうされてますか？」(現状や夢について語りましょう)

## 第4分科会

# 本人が希望する生活を実現するために

—本人の意思を尊重した地域生活とは—

人は、誰でも自分が望む生活を送りたい、自分の生活は自分で決定したいという願いを持っています。「障害」を理由に、このあたりまえの願いがかなえられないとしたら…。本人の願いを阻害する要因は何なのでしょう。友人との生活、一人での生活、パートナーとの生活等、本人が希望する生活を支援している方々からその取り組みについてお聞きし、本人主体の地域生活の実現に向けて、一步を踏み出す機会にしたいと思います。

**【講演】** 「一人ひとりのその人らしい物語をともに歩んでいくこと」  
—西宮市青葉園の人たちの50年の地域活動展開から—  
清水 明彦 氏 (社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 副理事長)

**【実践報告①】** 「しあわせな生活を実現するために」  
松村 真美 氏 (社会福祉法人南高愛隣会 常務理事)

**【実践報告②】** 「住み慣れた地域で自分らしく生活するために」  
伊藤 貴訓 氏 (社会福祉法人いこま福祉会 デイケアセンターかざぐるま 所属長)

**【シンポジウム】** 講演・実践報告の講師によるシンポジウム  
コーディネーター：宮城 明子氏  
(社会福祉法人光耀会 三田市障害者基幹相談支援センター 所長)

## 参加申込



大会参加・宿泊の申し込みは、専用のインターネット申込サイトより手続きください

**【申し込み期限】** 令和6年8月9日(金)  
ただし、定員(500名)に達した段階で締め切りとさせていただきます。

**【問い合わせ先】** 名鉄観光サービス株式会社 神戸支店 (担当:西村・磯野・二宮)  
〒650-0032 神戸市中央区伊藤町121 神戸伊藤町ビル2階

TEL) 078-321-1061 FAX) 078-321-5019

## 大会事務局

▶ 講師・演題等は、変更する場合があります

**【本大会の内容に関する問い合わせ先】**  
一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 事務局  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター5階502号室  
TEL) 078-862-6026 FAX) 078-862-6082 E-mail) hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp